

7.20. 21. 22.

熊谷うちわ祭公式ガイド 2024



## 继往开来

令和六年 年番町 第壹本町区

大総代 萩原直幸

令和二年から蔓延したコロナ禍は二年間の神事のみの催行、その後の二年間はコンバクト化縮小化された形での催行がなされてきました。この四年間の年番町の皆様方の並々ならぬご苦労ご努力には改めて感謝と敬意を申し上げます。

このような状況下、令和六年 年番町第壹本町区は懇を担っている町区として、この熊谷うちわ祭をどのように企画運営していくのか、熊谷市民の注目を集めていると自覺しております。この四年間に年番町の皆様方の並々ならぬご苦労ご努力には改めて感謝と敬意を申し上げます。

「継往开来」(先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開く事)の精神のもと下記の重点項目を解決し、皆様方とともに明るく楽しい熊谷うちわ祭の実現に努めたいと思います。五年前の形での熊谷うちわ祭には数々の要解決事項が内蔵されていると思います。これらを一つ一つ丁寧に解決し、最も今後八年間無事故で盛大な熊谷うちわ祭が持続可能な形で開催できる形を示していきたいと思います。

「継往开来」(先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開く事)の精神のもと下記の重点項目を解決し、皆様方とともに明るく楽しい熊谷うちわ祭の実現に努めたいと思います。五年前の形での熊谷うちわ祭には数々の要解決事項が内蔵されていると思います。これらを一つ一つ丁寧に解決し、最も今後八年間無事故で盛大な熊谷うちわ祭が持続可能な形で開催できる形を示していきたいと思います。

【重点事項】

- 熱中症予防と対策の徹底
- 維持警備の徹底
- 持続可能なうちわ祭りの運営方法の構築



# 第壹本町区

熊谷市指定有形民俗文化財



お囃子を聴く

第武本町区の山車を参考に、初めて地元熊谷で製作された山車として注目された。同様に御柱と床柱がズレているのが特徴。昭和四十三年に市の有形文化財に指定された。囃子は山車の製作された明治三十一年より、岡部の岡下郷の住人たちがやってきて叩いていた。それが熊谷祇園囃子の始まりとされ、そのまま伝承されてきた。近年、平成十一年と平成十九年に山車の改修を行った。

## 第武本町区

熊谷市指定有形民俗文化財



お囃子を聴く

この戸隠人形の山車は、遠く天保年間の作とされ、人形は天手力男命。作者は名工の誉れ高い深川佐賀町の二代目仲秀英であります。この山車は長く江戸天下祭に参加していましたが、明治二十一年には塗り・彫刻・飾り金物を修復し、平成二十九年には上段三方幕「白鳥の図」、下段三方幕「青龍の図」を新調し、十年をかけて山車の大改装を行い現行を果たす。

## 筑波区

熊谷市指定有形民俗文化財



お囃子を聴く

初代山車は明治三十五年鴻巣より購入。大正五年、野本民之助義明の彫刻で二代目山車を製作。現在のものは三代目で、昭和三十六年に新調したものである。また、平成二十一年には塗り・彫刻・飾り金物を修復し、平成二十九年には上段三方幕「白鳥の図」、下段三方幕「青龍の図」を新調し、十年をかけて山車の大改装を行い現行を引き継がれている。

## 銀座区

熊谷市指定有形民俗文化財



お囃子を聴く

銀座区では、大正十三年に製作された屋台を使用していたが老朽化に伴い、平成六年、熊谷で唯一、重厚さを増す裳階を付けた現在の山車を新調する。同年、平安建都千二百年記念「全国祇園祭山笠巡行」に招待され、更に平成十七年、江戸開府四百年記念で復活された「江戸天下祭」に再び、招聘の榮誉に与る。古の都大路、また首都東京・丸の内を直実公が、その勇姿を現し、大衆衆の中、威風堂々の運行を果たす。

## 彌生町区

熊谷市指定有形民俗文化財



お囃子を聴く

大正十三年、彌生町百八十六戸・霞町二十五戸にて屋台を新調。しなやかな唐破風、均整のとれた優美な姿。名匠、内山良雲の美事な彫刻が屋台に見える。昭和二十一年、北川敦彌刻師はじめ、伝統文化か賀工芸の匠を結集した絢爛豪華な仕上がりは、まさに「動く芸術品」です。記録に残っている最初の山車は「古事記」の垂仁天皇の条にある「青葉山」で、大國主を祀る庭として青葉で飾った山を造つたとあります。荒川区の山車は、「この大國主尊をお祀りした「動くお社」」です。

## 荒川区

熊谷市指定有形民俗文化財



お囃子を聴く

昭和二十二年製作の屋台が老朽化し、平成二十四年、山車が完成しました。製作は創業四〇三年で、「世界最古の打楽器店」として知られる株式会社太鼓樂器店。北川敦彌刻師はじめ、伝統文化か賀工芸の匠を結集した絢爛豪華な仕上がりは、まさに「動く芸術品」です。記録に残っている最初の山車は「古事記」の垂仁天皇の条にある「青葉山」で、大國主を祀る庭として青葉で飾った山を造つたとあります。荒川区の山車は、「この大國主尊をお祀りした「動くお社」」です。

## 彌生町区

熊谷市指定有形民俗文化財



お囃子を聴く

車 製作 昭和二十三年  
寸法 (H)四、七九〇 (W)一九〇 (L)五、五八〇  
山 人形 大國主命  
見送り幕 双龍

お囃子を聴く

車 製作 平成二十四年  
寸法 (H)四、七九〇 (W)一九〇 (L)五、五八〇  
山 人形 大國主命  
見送り幕

お囃子を聴く

車 製作 平成二十四年  
寸法 (H)四、七九〇 (W)一九〇 (L)五、五五〇  
山 人形 神武天皇  
見送り幕

お囃子を聴く

# 伊勢町区

平成三十年



お囃子を聴く

昭和十年製作の初代屋台が老朽化し、二代目屋台を昭和五十四年に建造しましたが、安全性を確保するため、平成三十年に中鉢を加えた二層式の山車としました。枠組を用いた鉢の構造が特徴の「総檜作りの山車」。車輪は「波間に番の鯉」の彫刻が施されています。二匹の鯉が伊勢町の「い」を模っています。龍の鬼板と鳳凰の懸魚は二代目のものを引き継ぎ、人形は初代屋台が製作された昭和十年に伊勢町の守り神として祀られた「弁財天」をお祀りしました。

## 鎌倉区

昭和二十八年



お囃子を聴く

明治二十九年製作の山車（人形は素盞鳴尊）は、市中電線化に伴い、明治四十二年越生町の黒岩町に譲られました。その後、御大典記念（大正期）として八千代号（屋台）が製作されました。昭和二十八年、現二代目八千六年に中鉢を加え二層式の山車として完成。現在の山車が老朽化に伴い、平成二十六年に大改修を行い、平成二十九年には、念願の山車人形、素盞鳴尊を製作。見送り幕には天女が描かれています。仲町の山車の屋根の上、人形の下の赤い二層幕には、現在の屋台を新調しました。

## 仲町区

昭和三十年



お囃子を聴く

明治三十九年製作の山車（人形は素盞鳴尊）は、花屋台を使用。昭和三十年に新しく山車を製作。當時弥生町にあった岡田屋という工務所で作られました。当初は一層であったが、昭和五十六年に中鉢を加え二層式の山車として完成。現在の山車が老朽化に伴い、平成二十六年に大改修を行い、平成二十九年には、念願の山車人形、素盞鳴尊を製作。見送り幕には唐獅子牡丹が屋台を一周彫りめぐらされている。

## 櫻町区

昭和六年



お囃子を聴く

櫻町区内では、明治の初め頃より御神輿が町内を練り歩いておりました。昭和三十年代には仲町と合同で参加した時期もありました。当時は一層であったが、四十年代には分離して町内のみで祭りが行われていました。地元の子供達が、お囃子をするために近隣の町區へ参加していた状況を見ていた有志が中心となり、昭和五十四年に伊勢町区より譲り受けた屋台にて、うちわ祭に参加して現在に至っております。平成六年には、現在の屋台を新調しました。

## 本石区

昭和十二年



お囃子を聴く

彫り物においても名工内山良雲氏が疫病退散の祈りを込めて彫られ、唐獅子牡丹を基調とした屋台である。お囃子は深谷市藤沢より伝承し、今日に至っている。上部・立体的な唐獅子が飾られている。下部・唐獅子牡丹が屋台を一周彫りめぐらされている。

## 本石区

昭和十二年



お囃子を聴く

昭和十二年製作の屋台として、総代二名の他四十一名の方々が建設委員となり新造。四方破風屋根を持ち、鬼板は八岐大蛇。各懸魚には四神（正面に青龍、後ろに白虎・左に朱雀・右に玄武）が施されている。お囃子は、元々、深谷の小台より職人が来てお囃子をしていたものを地元の有志に引継がれ、昭和五十一年より若連睦会がお囃子を伝承している。

## 本石区

昭和十二年



お囃子を聴く

昭和十二年製作の屋台として、総代二名の他四十一名の方々が建設委員となり新造。四方破風屋根を持ち、鬼板は八岐大蛇。各懸魚には四神（正面に青龍、後ろに白虎・左に朱雀・右に玄武）が施されている。お囃子は、元々、深谷の小台より職人が来てお囃子をしていたものを地元の有志に引継がれ、昭和五十一年より若連睦会がお囃子を伝承している。

## 本石区

昭和十二年



お囃子を聴く

車 製作 昭和十二年  
寸法 (H)四、九五〇 (W)三、一〇〇 (L)四、九〇〇  
山 人形 見送り幕  
見送り幕 鶴と亀

お囃子を聴く

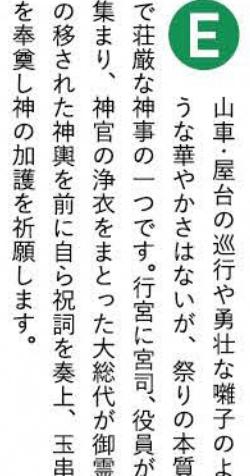
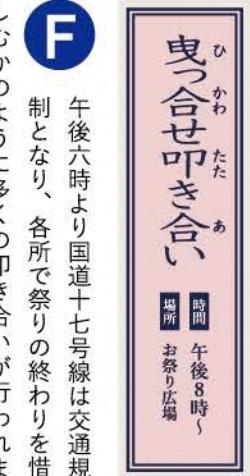
車 製作 平成二十四年  
寸法 (H)四、九五〇 (W)三、一〇〇 (L)四、九〇〇  
山 人形 見送り幕  
見送り幕 双龍

お囃子を聴く

車 製作 平成二十四年  
寸法 (H)四、九五〇 (W)三、一〇〇 (L)四、九〇〇  
山 人形 見送り幕  
見送り幕

お囃子を聴く

❖ 7月22日(月) ❖

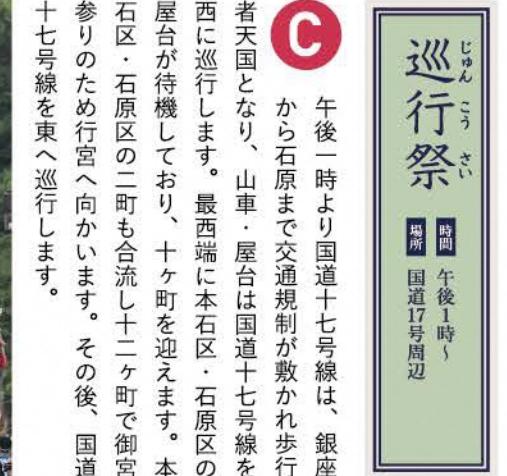


お祭り広場の四方を山車・屋台が囲み、多くの観客に見守られるながら年番町、迎え年番町がスタートします。徐々に十二基の山車・屋台が最後の叩き合いを行った後、お祭り広場の四方に移動し、「年番送り」と「曳(ひ)合せ叩(か)き合(あ)い」を待ちます。

午後六時より国道十七号線は交通規制となり、各所で祭りの終わりを惜しまむかのように多くの叩き合いが行われます。徐々に十二基の山車・屋台が最後の叩き合いを行った後、お祭り広場の四方に移動し、本宮にて最後の神事「着(き)輿(こし)祭(さい)」が執り行われます。

本宮にて最後の神事「着(き)輿(こし)祭(さい)」が執り行われます。三日間におよぶ祭のすべての祭礼行事が終了します。

❖ 7月21日(日) ❖



#### ◆ 交通規制 &迂回路 ◆



#### ◆ 交通規制 &迂回路 ◆



#### ◆ 交通規制 &迂回路 ◆



Official Sponsors



一般社団法人  
熊谷市医師会

一般社団法人  
熊谷市歯科医師会  
Kumagaya Dental Association

社会医療法人  
熊谷総合病院

一般社団法人  
熊谷薬剤師会

Coca-Cola  
BOTTLES JAPAN INC.

まっすぐ、あなたへ。  
埼玉県信用金庫

埼玉りそな銀行

SUNTORY

JFE 建材 株式会社  
熊谷工場

J:COM

JTB

ALSOK

損害保険ジャパン株式会社  
SOMPO

第一生命

大和証券  
Daiwa Securities

秩父鉄道  
DAIWA BANK

DAIWA BANK  
DAIWA BANK

東京海上日動

日本生命

馬車道  
BASSETTE GROUP

JR東日本

ファイブズホーム

富士住建

FUJITSU

Belc ベルク

Honda Cars 埼玉北

未来が見える世界をつくる。  
マイナビ 50x

MITO  
水戸証券

武藏野銀行

武蔵コープレーション

立正大学  
Theリスト×エキスパートを育む。

渡(と)御(ぎょ)祭(さい)

時間 午前6時  
場所 本宮・市街地・行宮

輿祭の三つの神事で構成され、愛宕八坂神社(本宮)から旧市街地八ヶ町を通り、途中の東西南北四ヶ所で地域を浄め、お祭り広場に設置された行宮まで神輿が巡幸します。各町の若頭総勢百人が白衣をまとい行宮に向けて巡幸します。途中、各町が迎え太鼓で神輿を出迎えます。

八坂神社(本宮)から旧市街地八ヶ町を通り、途中の東西南北四ヶ所で地域を浄め、お祭り広場に設置された行宮まで神輿が巡幸します。各町の若頭総勢百人が白衣をまとい行宮に向けて巡幸します。途中、各町が迎え太鼓で神輿を出迎えます。

輿祭は、発輿祭・途上奉幣祭・着輿祭の三つの神事で構成され、愛宕八坂神社(本宮)から旧市街地八ヶ町を通り、途中の東西南北四ヶ所で地域を浄め、お祭り広場に設置された行宮まで神輿が巡幸します。各町の若頭総勢百人が白衣をまとい行宮に向けて巡幸します。途中、各町が迎え太鼓で神輿を出迎えます。

輿祭は、発輿祭・途上奉幣祭・着輿祭の三つの神事で構成され、愛宕八坂神社(本宮)から旧市街地八ヶ町を通り、途中の東西南北四ヶ所で地域を浄め、お祭り広場に設置された行宮まで神輿が巡幸します。各町の若頭総勢百人が白衣をまとい行宮に向けて巡幸します。途中、各町が迎え太鼓で神輿を出迎えます。

輿祭は、発輿祭・途上奉幣祭・着輿祭の三つの神事で構成され、愛宕八坂神社(本宮)から旧市街地八ヶ町を通り、途中の東西南北四ヶ所で地域を浄め、お祭り広場に設置された行宮まで神輿が巡幸します。各町の若頭総勢百人が白衣をまとい行宮に向けて巡幸します。途中、各町が迎え太鼓で神輿を出迎えます。